武　一　中

令和８年２月20日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R7－20号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

「でこぼこは強い」の感想

校　長　　中嶋　建一郎

2/16 朝礼の話の感想 54 人が書いてくれました。ありがとうございました。考えを共有しましょう。

○デコとボコが重なり合ったら強くなれるというのが印象に残りました。自分の弱みも自分の良いところだと思って過ごしていきたいです。

●確かに得意なことが違う人同士が協力するほうが、いろいろな分野に対応できると感じたため、今日の話に深く納得した。だからこそ、今社会にはたくさんの職業があり、「適材適所」という考え方があるのだと感じた。また、高校には同じような学力や、同じような価値を持った人が集まるため、より多様性が意識できる中学校生活は貴重な時間だったと思った。

○凹凸があって、そこから多様性につなげる校長先生の発想に感銘を受けました。私もこれから自分とは「違う」といった人間と多く関わっていき、いろいろな考え方を養っていきたい。

●私も得意なことがある一方苦手なことも多いのでマイナスに捉えすぎず、クラスで団結する時や自分とタイプが違う人と話す時に互いに補っていけたら良いと思いました。

○いつも自分と似た人としか話さないから、色々違う人とも話そうと思った。

●私は、デコとボコは協力したら最高のペアになると思う一方で、逆にうまくハマらないというときもあると思いました。

○くっつくとうまくいきそう。

●一人ひとりの得意不得意を凹凸で表してそれらを組み合わせることでクラスの一体感を表現している感じがしてとても良かった。

○凸凹が得意不得意というのもあるし、感情の点でも凸凹してあるよなと思った。

●凸と凹が合わさると、綺麗になって協力し合うことができますが、合わせるまでには、崩れそうになったり、互いを理解していくことは難しいので、時間をかけてお互いの欠けている部分を補っていく必要があると思いました。

○大人でも教員でも、同じ種類の人間同士一緒にいるのは楽。だけど、そうでない仲間とどう過ごしていくのかが難しいけど面白いのかもしれない。と思いました～☆

●私が普段過ごしている中でも、自分と趣味が合う人や性格が似ている人とは付き合いやすいと思うが、確かに凸凹のように反対の人とはあまり話さない。グループでの活動やその他の活動を通しても自分が普段関わらない人と交流を深めていきたい。

○私は自分と性格が違う人のほうが一緒にいやすかったり気があったりするので、凸凹がハマっていて居心地がよいのかなと思いました。自分の得意なことを生かしたり苦手なことを補い合ったりできれば良い関係を築けそうだなと思いました。

●自分と同じ系統の人と話すことはたしかに簡単だ。相手も自分と同じように過ごしてきたから似たような経験をするからだ。しかし自分と違う系統の人と話すことも楽しいと思う。これまで自分が気が付かなかった考え方や価値観を持っていたりするからだ。今日の考え方は頭に入れときたい。

○私自身も趣味は同じだけれど個性が違う友達とよく一緒に居て、今朝の校長先生の話に共感でき、またゲームの中でも得意不得意を補い合うことがよくあるので、とても話を身近に感じられた。

●自分と違う性格の人は絶対にいるし、合わないなと思う人もいて、そう思ったときには避けてしまったりすることもあったなと思う。でも、その中でも話してみると意外と噛み合ったり、自分にないところを補えるような人もいることに気づくこともあった。最初合わないと思った人でも意外と噛み合う人もいるし、協力するうえでは、自分のないことを補うことができる人はとても大切だと思ったので、自分にとってそう思える人を探したい。

○いつも仲良くしている人だけでなく、たまにはあまり関わらない人とも話してみようと思いました。

●得意不得意を合わせると安定感が生まれるのは今まで考えたことがなかったので、意識して過ごしていきたいと思いました。

○得意なことは苦手の人と一緒にやろうと思った。

●私は苦手なことを克服しようと一人でなんとかしようとすることが多いのですが、やはりそうするとなかなか難しいことがでてきて人に頼ることも大切だと感じました。

○自分自身を見るときに、ついつい凸凹の「凹」に目が行ってしまいがちだけれど、相手の「凸」があることで互いに補い合ったり、より良い方向に向かったりすることがあると思った。

●お互いのいいところと苦手なところをカバーするみたいな話。

○確かに、凸と凹を組み合わせたら強くなるなと思いました。体育祭のときや合唱コンクールの時も運動や歌うことが苦手な人も得意な人もいたけれど一致団結して頑張ることで成功したんじゃないかなと思っています。

●「多様性」について、普段耳にする機会は多いものの、あまり身近に感じることがない言葉だと思っていたけれど、凸凹の立体で考えるとすぐにイメージできました。無意識に避けていた「凸と凹の協力」を意識して実践してみようと思います。